

1 岸見の石風呂 Kishimi-no-ishiburo Historical stone sauna





東大寺再建の用材を切り出した時の遺跡で、労働者の保養のため重源上人によって作られたものです。現在は国の重要有形民俗文化財に指定されています。 地元の花崗岩石を積み上げてつくられており、土間には石が敷きつめられています。石室は木造茅葺きの覆屋により保護されています。

石室の中で小枝を燃やして石を焼き、火をかき出した後、ぬれたむしろを敷いて 熱気浴をするサウナであり、同様の形式は佐波川流域に多く分布しています。 重源上人を「石風呂開山」と呼び、建物の休憩の間には、重源像を安置する祭壇 があり、命日の6月5日を「石風呂開山忌」として、石風呂をたき、お祭りをして、 感謝するのが習わしとなっています。

連絡先: 岸見石風呂保存会事務局(☎090-5708-1426)

② 三坂神社 Misaka Jinja Shrine





戦時中「日清・日露戦争の際、三坂神社に祈願して出征した氏子の兵士全員が生還した」と報道されたことから、武運長久祈願のみならず、弾除け神社として知られるようになりました。出征軍人の家族らが写真を奉納し、当時全国各地から2万枚を超える写真が寄せられ、現在も写真の返還作業が続けられています。

3 超勝寺 Chosho-ji Temple





延徳年間 (1490年前後) の頃に、大見山荒神社麓の清水井から浮かび上がった「釈迦如来の木像」が守護大名大内氏に信仰され、大見山専皇寺として創建されました。しかし、大内氏滅亡後、破壊され、古跡寺となっていました。万治二年 (1659)、超勝寺の開基「惠順」法師が、この古跡寺に小庵を結び、後に境内にお堂を建立し、現在に至っています。現在のお堂は、平成元年(1989)の「水中出現五百年記念法要」を機会に再建されたものだそうです。お堂には水中出現の釈迦如来像と専皇寺ご本尊の釈迦如来坐像という2つの仏像が納められています。水中出現の釈迦如来像は、古跡寺となったあとも遠近の里民から火除けの願いも込めて、「水中出現火除釈迦如来」として尊信護持されてきたと伝えられています。500年も前に水から浮かんだといいますから今では形もよく整っていないそうですが・・。専皇寺ご本尊の釈迦如来坐像は、五百年記念法要の際に修復され現在に至っています。

